



# 君を見る 染井吉野

「黒孔雀シリーズ」番外編

伊祖子 久美

俺の部屋に来るようになってからも、泉の方は何が変わったというのではない。

変わったとするなら俺の方だろう。

毎日使う最寄駅で降り、スーパーかコンビニに寄ってビールとつまみと、弁当を買って帰る。そんな普通のことなのに泉が一緒だというだけで息が苦しい。

それは勿論、嫌な訳じゃない。

生まれたばかりの仔猫を掌に置いたような気分だ。

思い切り抱きしめたり頬ずりしたりしたいけど、そうしたら猫が苦しんだり嫌がったり逃げたりするかもしれない。

それ以上に、下手に力を入れ過ぎると殺してしまうんじゃないかと思うから、手の中であたためて指先で耳の間や喉をそっと撫でるだけで我慢してるときに似ている。

泉とは普通とは違うきっかけでセックスする仲になった。好きだと言ったのも、唇にキスするようになったのも随分経ってからだった。一緒に飲みに行ったり、休日に遊びに行くようになったのは最近だ。

泉は俺が好きだと言うと喜ぶ。

けれど泉の態度は「いいんだよ、いつ別れても。都合が悪くなったときにはいつでも」と言っているように思えてならない。

泉が俺を友達に見せびらかしたり、殊更に俺に甘えたりするのは、いつか来る終わりを見ているから——そんな気がしてならない。

別に雑に扱われてる訳じゃない。寧ろ、泉は、これまでつきあったどんな女の子よりも気遣ってくれてる。俺が泉を大事にしようとする以上に細やかに、その癖さりげなく気遣ってくれるから、意識して優しくしよう、喜ばせようとする自分が無様なような気さえする。

たとえば、泉がしてくれるように、喉が渴いたと思ったらコーヒをそっと置き、退屈だと思ったときにネットで拾った爆笑動画を送り——そして、ベッドの中で、ときにはして欲しいことをもう十分過ぎるというほど、別のときには、想像もしたことがないほど新鮮なことをしてやれるような恋人になりたい。

不意に、泉は反対側の歩道に目を遣った。

「綺麗だね」

フェンスの向こうには小さな児童公園がある。

休日の午前中から子供が大声で笑ったり泣いたりして、朝寝を邪魔されるが、夜には誰も出入りしない。

ささやかな外灯に桜が浮かび上がっていて、花びらが絶え間なく散っている。

風がなくても桜は零れるように散るものらしい。

「桜も、もう終わりだね」

泉が言った。

この春はなかなか来なかった。四月に入っても冬はしつこく居座り続けて、やっと咲いた桜なのに、もう散り終わってしまおうとしている。

「最後のお花見してく？」

泉がそう言ったので、公園のベンチに座って、音もなく降りしきる桜の下で冷えたビールの栓を開けた。

泉は俺の頭のとっぺんに落ちた花びらをつまんで、指先をふっと吹いてそれを飛ばした。

泉の髪にも花びらが留まっている。

取ってやろうと思ったが、艶のある真っ黒な髪にとまった淡いピンクの花びらが綺麗なのでやめておいた。

どうせうちに着いたらシャワーを浴びるんだ。このままでいい。

「綺麗だね」

頭上を見上げて泉はまたそう言った。

ビールを一口飲んで、泉は俺の方を見た。

「俺の顔見てどうすんの？」

ああ——見惚れてた。

「桜、明日には全部散っちゃうよ？」

泉は笑う。

「いいよ。来年咲いたらまた見るから——お前と一緒に」

それは当然のことだという風に軽い調子で俺はそう言った。

泉が重いとか鬱陶しいとか感じないように、努めて自然に、さりげなく——そう聞こえているだろうか？

俺は、来年も、再来年も、ずっとずっと先までお前と桜を見たいんだ——そう言って抱きしめてキスして、お前もそう思ってるだろう？ 思ってくれ、と叫びたいのを堪える。

今は、なんでもないことのように響いているといい。

「——綺麗だね」

うっとりとして、幸せそうに俺の肩に凭れて、泉はまた言った。

【了】

君を見るー染井吉野

<http://p.booklog.jp/book/84869>

[黒孔雀は知っている。\(無料\)](#)

[DAY OFF \(無料\)](#)

◆関連作品◆

[黒孔雀は晒う \(18禁・有料\)](#)

[黒孔雀は囚われる \(18禁・有料\)](#)

[君の好きなこと \(18禁・有料\)](#)

[君の好きなところ \(18禁・有料\)](#)

著者：伊祖子久美

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/iso5kumi/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/84869>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/84869>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ